

長崎大学について

学長メッセージ
大学からのお知らせ
ニュース&トピックス
イベント情報
学術情報
公開講座
広報誌
施設貸出案内
宿泊施設「親月荘」のご案内
東京事務所(長崎大学教職員・学生・OB専用)
調達・工事情報
教職員採用情報
大学案内
理念、ミッションの再定義及び特色
ロゴマーク・学歌など
寄附金・共同研究・受託研究
情報公開・個人情報保護
数字で見る長崎大学
大学点検・評価
卒業生向け情報
国際戦略

がん生物学から再生医療へ～細胞極性因子の新たな機能を発見～

いいね! 4 ツイート 7 G+ 0 Bookmark 0

2015年02月20日

長崎大学原爆後障害医療研究所の小野悠介テニュアトラック助教らは、Scribとよばれる細胞極性因子が骨格筋の再生において重要な役割を担うことを発見しました。

Scribは、細胞極性を制御するタンパク質(細胞極性因子)の1つです。Scribは、整然とした上皮構造の維持および上皮細胞の増殖を抑制する「がん抑制遺伝子」として知られています。実際、大腸がんや乳がんなどほぼ全ての上皮性がんに通じてScribの発現低下や局在異常が観察されており、がん生物学の研究領域で注目されています。しかし、生体組織の修復・再生を司る組織幹細胞におけるScribの役割については分かっていませんでした。

今回、研究グループは、骨格筋の再生治療応用で期待されている「サテライト細胞」と呼ばれる骨格筋の組織幹細胞に着目し、Scribの機能を調べました。その結果、Scribは用量依存的に、サテライト細胞の増殖、分化、自己複製などの幹細胞の運命決定を巧みに制御することで、骨格筋再生において中心的な役割を担っていることが明らかになりました。

本研究は、これまで報告されてきた上皮細胞におけるScribの機能とは異なり、組織幹細胞における細胞極性因子の新たな側面を見出しました。本研究成果は、がん生物学分野への新たな知見をもたらすのみならず、筋ジストロフィーなどの遺伝性筋疾患や世界的に増加の一途を辿る加齢性筋肉減弱症(サルコペニア)における病態解明あるいは筋再生治療開発の手がかりになる可能性があります。

本研究成果は、米国生命科学誌「Cell Reports (セルリポーツ)」(2015年2月19日付) 電子版に掲載されます。

詳しい研究内容は[こちらのPDF](#) (1.10 MiB)をご覧ください。

問い合わせ先(責任著者):小野 悠介
長崎大学原爆後障害医療研究所幹細胞生物学研究分野
〒852-8523
長崎市坂本1-12-4
Tel:095-819-7099
e-mail:yusuke-ono@nagasaki-u.ac.jp

[このページの先頭へ](#)

[プライバシーポリシー](#) | [サイトポリシー](#) | [免責事項](#) |

[ホーム](#) | [長崎大学について](#) | [学部・大学院・附属施設](#) | [修学案内](#) | [学生生活](#) | [研究活動・国際交流](#) | [就職情報](#) | [入試情報](#) |

国立大学法人 長崎大学:長崎大学広報戦略本部 〒852-8521 長崎市文教町1-14

Copyright© 2010 Nagasaki University, All Rights Reserved.